

8月28日、朝5時 窓の外の外気温 27℃ 少々涼しくなってきました。
耕区 57 区では、現在マメ科植物のクロタラリアを繁茂させています。

ナスは、クロタを超えて伸びる。クロタラリアの作る半日陰で、ナス元気。
1本の株には、5本もの実がぶら下がっている。ナス元気。パパイヤの根穴跡
に沿ってナスの根が伸びる。散水時にナスの株元に水圧をかけてみると、ぐ
るりと輪状に溝ができる。水圧で、モグラ・ネズミの通路が破壊される。半径
40 cmの円周の溝だ。その溝にタキイ種苗の完熟「ダルマ堆肥」を多量に入れ
る。自家製の有機肥料を置く。さらにその上に刈草でマルチする。

例の御用達の「玉肥」小粒をマルチの上に置く。置くだけ。これで、ナス
は、元気回復。後は水をやるだけ。インド東部のモンスーン地帯で度々発
生する大雨。小川の氾濫。ジャングル脇の腐葉土が流れ込む。

「ナス」は「ナス」に聞け、なのであります。想像力を働かせましょう。

収穫後の強い芽を活用して整枝、根脇をシャベルで切る。追肥。その手も
あるが、毎年失敗している。で、モグラ穴の利用は面白い。一に楽々。ラ
クラク・オクオクなのである。インド東部のナスと似た状態でありましょうか。

クロタラリアは、アフリカの雑草。根に根粒菌が着く。「菌根菌」だ。根に
ネマトーダが侵入すると、細胞を増殖させてネマを締め上げると言う。見た
ことは無いけれど、凄い働きだ。クロタの跡地は、ダイコンが美肌で作れる
のでスゴイ。クロタの根は、地中深く良く伸びる。根耕力が強いのである。
利用しない「手」はない。今、私の耕区 57 区は、クロタだらけである。

この植物には病跡、虫穴がない。避病虫害性だ。マメ科なので富栄養植
物。刈草に使える。刈り取ってマルチ材として使います。熱帯植物なので冬
には枯れてしまう。雑草化することは無い。今 8/29、豆莢を沢山つけている。



7/16 ナス、クロタで半日陰になる



7/11 クロタラリアで日陰を作る

気温 36 度越えになると、さすがの私も外出を控える。朝夕の水遣りもできないのであります。ナスもキュウリもトマトもお終い。菜園で採れた野菜は美味しい。とにかくこの暑さは、危ない。農園行きは、危ない。

畑の草に悩まされている耕区がある。とにかく、お手上げだ！。草を抜くだけでお終い。大変。地獄の苦しみになっている。

どうすれば良いのか考えてみましょう。まず、耕区中央に作業路を設ける。U字支柱で、畑の中央に作業路を作る。垣根通路を作るのである。そこに蔓物野菜を絡ませる。と、と、耕区中央に日陰ができる。棚は、2 年間そのまま。

U字支柱の下は、風呂の腰掛を置けば休憩所。日陰には、弱々しい草が生えてくる。その草たちは、たわいなく抜ける。

中央作業路の両側に幅広畝(1.20m)を 2 列。2 年間使い続ける。春であれば生長の旺盛なジャガイモ。春から夏にかけてサツマイモで覆う。これで始末の悪い雑草は、生えにくくなる。作物で雑草を押さえるのである。

本命の野菜の畝(1.20m)は、は有機物(糠など)を撒いて更に善玉菌を撒いて、土毎醗酵。これで雑草の種は死んでしまう。発酵熱(40℃)で死滅。4 週間もあれば良いでしょう。土ができてきます。野菜苗の植え込み、種蒔だ。

公園等に生えている草たちをいただく。自分で刈ってくる。土が露出している所＝畝脇に置く。これで、雑草は生えてこない。

空いている地表に強勢な野菜を植えてしまう。シソ、モロヘイヤ、オクラ、ツルナ、クロタ・・・。

中央通路の位置にパパイアを 3～4 本、植えるのも良い。日陰ができる。雑草たちは勝てないのである。隙間に刈草を置く。これで、雑草に負けないのである。クロタラリアの根張りは、深い。クロタで、根耕できるのである。

畝は 2 年間、耕さない。利用できる。3 年目には、草たちが生えにくくなる。不耕起栽培を続けていきますと、地表のマルチ材を少しかき分けて苗を植える。種を蒔く。常時その作業で野菜が作ることが出来る。後は、水遣り、水遣り。

少しの雑草の名前を覚えましょう。少しの害虫たちの名前を知りましょう。少しの加害病名を知りましょう。解ってきますと、面白くなってくる。

お友達が、ナス、トマト、ピーマン・・・、に触れながら話しこむ。これはいけません。人の手はきれいとは言えない。親愛の情からか触れてくる。これは止めましょう。特にタバコに触れた方の手で触って欲しくない。タバコモザイク病が撒かれるのです。喫煙者さんは、気をつけましょう。

有機で栽培を続けていると、病虫害の被害が減ってきます。「健康」で「元気」に育っている野菜たちには、きやつ等は寄って来ないのであります。「水」「光り」「風通し」「適正養分」「適期適作」・・・、健康・元気野菜を育てよう。

ムシ除けに畝の 4 隅にタンジイマジイを植えています。ハーブの先生、外山タラ先生にいただいたものである。

昭和 20 年の夏は、暑った。

学童疎開先で、激しい下痢。脱水症状に襲われる。首も腕も衰弱から思うように動かせなくなってしまった。天井や畳を見ているだけ。汗穴に蠅が汗を飲みに来る。トイレにも行けなくなってしまった。

連絡を受けて母が来る。風呂屋の脱衣籠、敷布、手拭い、大風呂敷……。 「富士吉田駅」から飯田橋へ。風呂敷に包まれて、網棚に載せられて、帰る。見送ってくれる人は誰も居なかった。終わりなのかなーと思う。

風呂敷の隙間から沿線の田の反射する「光」を見る。7月のでき事であった。母は、看護学校出でした。で、衰弱しきった我が子の介護に必死でした。私は、助かった。漂流記等で読むような餓死寸前の患者。この小学1年生は、助かった。

おかゆと薄めた蜂蜜、カタクリ湯、煮込んだお海苔、薄味のお味噌汁、お豆腐、お麴、鰯のつみれ汁、鶏の茹で汁、鳥の足の……。父が魚河岸や新宿当たりの闇市で探してくる。とにかく寝ていれば、両親は安心してくれた。一月ほど経ちますと這い回れるようになった。私一人にとっても手がかかりました。私の上に5人の姉と兄がおりましたから、さぞかし大変だったであります。昭和20年、妹が生まれ末っ子でなくなった。母乳をおすそ分け……。?

少し、元気になった私は盗み食いをよくした。その度、吹き出す、吐く、下痢をする、自家中毒で、ゲップ。学童での衰弱が、尾を引いた。それでも食べたいのである。悪い行いは、直ぐに露見した。

8月15日

いつもと様子がちがっていた。父は、国防消防団とやりに駆けつける。母は、手早く掃除。階段を登ったり下ったり。階下のラジヲのスイッチを入れる。町会の集会所に行く。留守になる。

私は、這って階段に向かう。下を見る。「玉音放送」が始まる。階段突き当りの小窓からドラの音。「ボウ」「ボーウ」「ボウ」と鳴り響く。東京湾を行き交う巨船。飯田橋の高台から見えました。街は消失。港が見えたことに驚きました。東京湾だ。階段を一人では降りられない。辺りは、とても静かであった。戦争が終わった喜びの雄たけびであった。重低音が鳴り響く。「ボウ」「ボーウ」「ボウ」と。晴海の方に海が見えた。

この2階家は、建築会社の棟梁の家で、大工さんの下宿棟でした。3月の空襲で、我家は失せてしまった。宿は、4歳上の姉の友達の家でありました。私の同級生の「善ちゃん」の家。8月15日はその家に居たのであります。暑かった。小窓越しの日差しが強かった。痛かった。

母の臭い

母は弱った私を良く抱いてくださった。副え寝してくれた。母の体臭は桃の香。色白で、ふくよかなタイプであった。母は、何か面白くないことが起こると、私の手を引いて映画館などに出かけた。大きな桃を手提げから取りだしていただく。鬱憤晴らしである。薄皮が良く剥ける完熟の桃。あたりに桃の香りが流れる。「カルメン」「どんどこ」「戦争と平和」、小津作品など。優しい母の薫。桃畑の樹上完熟果でないとあの匂いはない。桃をいただくと、いつも母を思う。思い出す。

耕区 57 区 最近の様子



9月に入り東京百目柿実の渋が抜け始めた。 柚子の青実も使えそうだ。 東京百目は、どんどん甘くなる。 それで、黄色くなり、いただく。 11月、霜！。 渋がよみがえり食べられなくなる。 エチルアルコール、焼酎、残りのお風呂に浮かす。 渋抜きがいる。 皮を剥いて、干すのも良い。 干し柿にする。

刈草をどかして、豚糞醗酵肥料の「グリーンランド」株式会社エンザを置く。 三角鍬で均す。 手持の種子をばら撒く、元気な奴は芽を出せ！。 1月で耕地をお返しする。9月に入ったら片付けないと間に合いません。来年はどうしようか…。 気力の衰退、体力の限界もあるし。 終活も少しはしないとネ…。 T、